

6

## 月20日は 国際日系デー 各地で3度目の記念日を祝福

2018年、日本人がはじめて集団で海外へ移住してから150年となることを記念して、最初の移住先であるハワイで開催した第59回海外日系人大会において、6月20日を世界各国共通の「国際日系デー」とすることが宣言された。3度目の記念日を迎えた2021年6月20日、日本では6月18日の「海外移住の日」と6月20日の「国際日系デー」を記念して当協会が主催（JICA横浜 海外移住資料館 共催）し、オンライン・トークショー「アーティスト大岩オスカル ×サンパウロ、東京、ニューヨーク さすらうニッケイ・アイデンティティ」を海外日系人協会YouTubeチャンネルで公開した。

トークショーでは、ブラジル、サンパウロに日系二世として生まれ、アーティストとしての活動拠点を、サンパウロ、東京、ロンドン、ニューヨークと移しながら世界的に活躍している現代美術家の大岩オスカルさんに、自身のニッケイとしてのアイデンティティや、子ども時代のこと、コロナ禍中での創作活動などについてお話をうかがった。

聞き手は、ブラジル日系三世であり「在日ブラジ



ブラジルでは記念イベントがライブ配信された



パンアメリカン日系人協会では、各国と連携して音楽ショーを配信

ル人一世」を自称する、武蔵大学社会学部メディア社会学科教授のアンジェロ・イシさん。同じ日系ブラジル人であり、活躍のフィールドは異なるが、同じ時代を東京で過ごした経験を持つ（イシさんは現在も東京在住）お二人が、国境を越えて活動するうえで、日系というルーツやアイデンティティというものをどうとらえているのか等、オスカルさんの作品紹介を交えつつ、様々な観点からトークを繰り広げた。次頁からは、トークショーの一部を抜粋して紹介する。

日本以外でも、ブラジルではオンラインで記念イベントを、ペルーでもAPN（パンアメリカン日系人協会）が各国と連携してオンライン音楽ショーを配信した。また、ハワイやアルゼンチンでは、国際日系デーを祝福するビデオを作成してYouTube等で公開したほか、ボリビアではボリビア各地の日系青年らで組織するANIMO (Amigos Nikkeis en Movimiento) が、国際日系デーをテーマにオンライン・セミナーを実施した。

日系人自らの発案によって制定が宣言された「国際日系デー」は、世界各地で祝福をもって迎えられた。今後、日本でもより多くの人々にこの日を知ってもらい、世界中で活躍する日系人の存在と、その歴史や功績に思いを馳せる日となることを願ってやまない。

ボリビア日系青年によるオンライン・セミナー

### 国際日系デーとは…

日本では、1966年に総理府（現内閣府）が6月18日を「海外移住の日」と定めている。これは、1908年、第1回ブラジル移民船笠戸丸がサントス港に到着した日にちなんだもので、当時は、日本国民に移民について理解を深めてもらい、海外移住の希望者を集めるキャンペーンが行われた。現在はブラジルでも「日本移民の日」として6月18日に関連行事や記念ミサと法要が行われている。

ブラジル以外でも、各国の日系社会それぞれに「移民の日」があるが、日系人にとって国を越えた共通の記念日はなかった。そこで、世界共通の記念日を設けることで、日系人としてのルーツに思いを馳せ、受け継いできた日系レガシーを継承し国際社会に貢献していこうと定められたのが、「国際日系デー」だ。

2017年のパンアメリカン日系人大会で日系青年らの発案により提案された「国際日系デー」は、翌2018年6月に、世界各国の日系人が集まる「第59回海外日系人大会」（ハワイ開催）において、日本からの最初の移民集団がハワイに上陸した6月20日を記念日として宣言することが採択された。

オンライン・  
トークショー

# アーティスト 大岩オスカー × サンパウロ、東京、ニューヨーク

## 「さすらうニッケイ・アイデンティティ」



大岩オスカーさん(左)、アンジェロ・イシさん(右)

**アンジェロ・イシ:** みなさんこんにちは。もしくはこんばんは。海外日系人協会の常務理事で、武蔵大学社会学部で教授を務めていますアンジェロ・イシと申します。

今日は、僕が敬愛する大岩オスカーさんとトークできるというのがとっても嬉しいです。二人ともブラジル出身なので母国語はポルトガル語ですが、今日は日本語でトークをするというのが、不思議な感じもします。でもテーマが「日系デー」ですから、日系を繋ぐ言葉はやっぱり日本語でいいんじゃないかとも思ったりします。

**大岩オスカー:** どうも、アンジェロさんこんにちは。アンジェロさんとの出会いは20年以上前だったのかな。僕も日本に住んでいて、その当時、90年代～2000年代初めはいろんな日系ブラジル人が日本に住むようになって、その中でも活動が目立つ人のひとりがアンジェロさんだったので、なんとなくその辺から縁があって。今回このような形で久しぶりにトークすることになったことをとても嬉しく思っています。

### 「わけわかんない」こと自体を楽しんで

**オスカー:** 自分はブラジル生まれブラジル育ちで大学まで出て、初めて日本に行ったのが20歳のときだったのね。80年代の後半くらい。初めて日本を見て、ブラジルの日系社会と全然違うし、人間の雰囲気が違う。服装が違う、歩き方が違う、ボディランゲージ、身体の動きも違う。言葉も進化しているし。最初はすごくカルチャーショックだったけど、若かったから「わけわかんない」こと自体を楽しんで。

一度ブラジルに戻って、大学を終えてまた25～6歳から本格的に日本に住んで、アート業界のなかでいろんな人と会って仕事を始めました。

**オスカー:** 昔から絵を描くのが好きで、どこまで大きい絵ができるかなと思ってこのような空間の中に描いたり、巨大な壁面に描いたりしました。



瀬戸内国際芸術祭2016に出品した「大岩島2」  
巨大なエアドーム内に油性ペンだけで描かれた

描くのはパブリックの場所だったり、個人コレクターのものだったり。日本をベースに海外へも行ってました。2002年にもう一度何かしたくなって、いま住んでいるアメリカ・

NYに渡って。それ以来毎年日本に1～2カ月くらい帰ったりしながら過ごしてきました。日本だけでなくヨーロッパとかブラジル、中国などでも大きな展覧会とかをやっています。



「Timer Shipper」  
(上海アーバン・アート・スペース 2019)

### いろんな情報を頭のなかでごちゃごちゃに

**アンジェロ:** 僕も、東京と群馬で大岩オスカーさんの個展を見ることができたんだけど、本当にすごいんですね。ぜひ実際に現地を見て、体感してもらいたんだけど、このスケールの大きさ、コンセプトや世界観というのにいつも感心します。

今日のテーマは「ニッケイ」だけれど、このニッケイであるということが、どのくらい関係があると言えるのかどうか、どう思いますか?自己分析してみると。

**オスカー:** 自分のお父さんお母さんは移民一世だったので、家の中では日本語で話して、物の考え方とか価値観が50年代の日本人なので、日本に行く前から日本文化の影響は家の中に自然にあったりしました。

大学時代にサンパウロ・ビエンナーレというアートの国際展が開催されて、日本からも色々なアーティストがブラジルに来ていたんですが、日本語ができるということで色々とお手伝いなんかをして。18～20歳くらいのころですね。その中で、初めていまの日本のクリエイターたちと知り合っって、こういう人たちがいまの日本人なんだ、という風に思いました。

その後、20歳で初めて日本に行って、ものすごくたくさんの情報が頭の中に入ってきました。ビジュアル的な情報もそうだし、食べ物とかも。初めて雪を見たり、敬語とか、クライアントとどう仕事を進めるのかとか。

古い時代の日本にも興味があって昭和時代の映画を観たり、もっとさかのぼって江戸時代の版画とか文化とか。美術館や展覧会もたくさん訪れました。地方に行く度に博物館に行ったり、お城やお寺などの建築物を見たり、民家や酒蔵を訪ねたり。そこから入ってくるいろんな情報を頭のなかでごちゃごちゃに混ぜて。そうしたものが、どこかで影響しているんじゃないかなと思います。

**アンジェロ:** 海外で生まれ育った僕らのような日系人のほうが、場合によってはいまの日本人以上に、それこそ昭和の映画とかにも興味を持ちますよね。僕も、サンパウロにいたころはずっと黒澤明の映画が大好きで、黒澤の映画は全部、何回も観ていました。日本に来たら日本のみなさんと熱く黒澤明について議論ができるだろうと思っていたんだけど、日本の学生たちは「クロサワの映画?ほとんど観ていない」みたいになりアクションで。なんかこう、すごくショックだったというか(笑)

**オスカー:** 意外とそう(笑)。黒澤、小津(安二郎)まではなんとなくだけれど、もうちょっと深く入るとほとんど誰も観ていないというかね。でも、昔は観ることができなかったようなものがいまはYouTubeとかに載りはじめてるので、パンデミックで外出できなかった期間に結構観ました。昔の人々がどう生きて、どう変化していったのか。恋愛や家族関係、お葬式とか、そういうのがよく見えておもしろいなと。

## 話す言葉の文化に創るものが現れる

**アンジェロ:** すごく抽象的な質問になってしまって申し訳ないんですけど、オスカルさんは、日系アイデンティティというのは、どちらかといえば無国籍、世界の市民に近いと思うのか、それとも多国籍、日本プラスほかの国のブレンドみたいなものに近いと思うのか。きれいに区別するのは難しいと思うんだけど、ご自身のアートとしてのクリエイションは、自己分析するとどちらに近いのか。見る人によって作品の解釈は違うんでしょうけれど、多分みんな、アーティストご自身の考えに興味を持っていると思うんですね。



**オスカル:** 自分は、国とか年上年下とか肌の色とかどうでもいいと思っているけれど、やっぱり自分には自分の育った環境があるから、ある意味では限界がある。日本語ができるから日本人の友達が多かったり、ポルトガル語ができるからブラジル人の友達が多

かったりするし、やっぱり話せない国の文化というのは入り込めないというか。単純に言うと、例えばアラブ系の文化とかロシアとか、あの辺はぜんぜんわからない。言葉も考え方もわからないし。アメリカも18年住んでやっとアメリカ人が何を考えて議論して、何を政治家が言っているのがわかるようになってきたけれど。

言葉は勉強すれば覚えるけれど、その中身というか、言葉話す心がわからない。いまは英語は多少大丈夫になってきたけれど、自分が育った言葉の文化によって作るのが現れてくる、それによって見る人が好き嫌いというのは当然あったりすると思います。

## サンパウロ、東京、NY どこでも自分のマイホーム

**アンジェロ:** 僕は、みんなが国同士の文化の違いというものを、ある意味気にしすぎ、強調しすぎていると思うところがある。サンパウロや東京、ロンドンなどのグローバルシティというのは、違いよりもむしろ共通点のほうが多かったりして、いろんなルーツやバックグラウンドを持つ人も多いし、すごく居心地がいいと思うんですね。

僕は日本の友だちに、「日本が大好きというよりも、東京というシティを愛してる」「東京以外の街ならあんまり住みたくない」などと言って、友だちがちよっと複雑な顔をする人が多いんですけど、本当にそう思っているんですね。例えば東京だとベトナム料理っていうだけじゃなくて「南ベトナム料理」なんていう店がある。単なるロシア料理じゃなくて、旧ソ連の「ベラルーシ料理」なんて店もあったりして、それがすごく魅力的なんです。あと、自分はブラジル人というアイデンティティよりも、サンパウロっ子、ポルトガル語ではパウリストアノと言いますけれど、そういうローカル・アイデンティティの方が強いと思ったりするんですよ。いまでは「東京人」というプライドというか誇りみたいな気持ちを持っている。

**オスカル:** 何年ですか？東京に来てから。

**アンジェロ:** 90年に日本に来て、最初の3年は新潟に住んでいてその後はずっと東京。もう30年近いですね。いまのオスカルさんも「ニューヨーカー」としてのアイデンティティがかなり強くなっているんじゃないかと想像するんですけど、いかがですか？



**オスカル:** NYはすごく外国人が多くて、ある意味では気楽に住めるというか。物価が高いからみんな必死に勉強して仕事をするというのが、なんかニューヨーカーという感じがかな。

自分も最初は右も左も全然わからなくて、英語力もあまり高くなくてわからないことが多かったけれど、なんとなく時間は経って、子どもはアメリカで育っていく。いろんな友だちもできて、長年住んでるとまた新しい人がNYに入ってくるじゃない？若いアーティストが日本から奨学金もらって来たりすると、いつの間にか先輩っぽく「NY

ではね…」なんて言うようになって(笑)。ビザ、保険、教育の問題とか、そんな説明をするようになって。ウチに呼んだりスタジオでパーティーしたりして、若い世代の友だちにアドバイスをしたり。そうやっていつの間にかニューヨーカーになってしまったというかな。

でも、よくサンパウロに行ったり東京に行ったりして、どこに行っても言葉が通じる友だちがいたりするから、自分はサンパウロ、東京、NYどこでも自分のマイホームと感じているんじゃないかな。うちの親は日本人で、ブラジルに移住して、自分はまた日本に行ってアメリカに来て。すごく移動が多いけれど、やっぱりこう、日本は日本としてあるが、世界とやっていかないとダメなように、自分もいろんなところと繋がって仕事をしたいなと。

## 大岩オスカルは海外アーティスト？



[Zeus, The god of Olympia] 2019

**オスカル:** ブラジルもアメリカも、日本は島国でちょっと違うけれど、だいたい世界中で血が混ざっていくというか、文化が混ざって何千年と動いているから、あんまり自分の中ではアイデンティティとか国とか、日本人であるかないかはこだわっていないというかな。

ただ、アート業界で働いていると、例えば日本の公立美術館がコレクションを分類するときに、だいたいピカソとかモネとかは海外アーティストというカテゴリーで、それに対して国内アーティストというように分けるケースが多いのね。僕は同世代の日本人アーティストに友達がいっぱいいて、一緒に飲んだり食べたり騒いだりするけれど、じゃあ美術館がコレクションを分ける時に、大岩オスカルは海外アーティストとしてピカソと一緒に分類するのかという、学芸員たちは考えちゃうのね。「う〜ん、オスカルは日本国籍は持っていないし、どうしようか」と。最終的には日本人アーティストと一緒にあって、それが一番自然じゃないかなと思うけれど。東京に住んで東京で生きて一緒にやっている人たちが自分のグループというか。海外アーティストでピカソと一緒によりは、全然自然じゃないかなと思うのね。

その大きい流れで、この2年半前からサンパウロにあるジャパンハウスの展覧会に呼んでもらったりして、日本サイドの枠にも入ったりしている。ちょうどこのパンデミックが始まるちょっと前に、国際交流基金がパリにメゾン・デ・ラ・クルトゥーラ・ド・ジャポンという大きい国の施設でスペースを持っていて、そこがオリンピック絡みの展示会のために呼んでくれて、それもすごく嬉しいというか。

自分の場合は、あまり「日本、日本」「ブラジル、ブラジル」というよりは、何かのきっかけで同じこの時代に生きているんだから、国にこだわるよりは何かおもしろいことをやっていきたいなと思ってやっています。

**アンジェロ:** もししたら謙遜していらっしゃるかもしれないけれど、僕らから見たら本当に偉大な、まさに新規開拓をしてくれていると思うんですね。どこの国の人とかに関係なく、作品そのものが魅力的だから、それが新しい道というか新しい展示スペースを開拓して、結果的にこれからの日系人たちの活躍の場を広げている。

僕は最近、世界各国のジャパンハウスの国際比較も研究として手掛けているんだけど、ジャパンハウスは日本文化を紹介する施設だから、日本人アーティストだけをショーケースすべきだという、そういう狭い考え方を持つ人たちも実際にいると思うんですね。でも、日本にゆかりのある日系人たちを、もっともっと日本の文化外交に活用すべきだと思っていて、ジャパンハウスでのオスカル大岩展はひとつのヒントになるし、大きな道を拓いたと、そういう風に思ったんです。

**オスカル:**日本と深い関わりがあるから自然にいろんな知り合いがいて、外務省の人を知っていたり、国際交流基金に友達がいったり、美術館に友だちがいったり。メディア関係とか建築家とか音楽関係とか、アンジェロさんのような方とも繋がっていたりして、それであんまり深く考えずに何かおもしろいことができなかな、というのが、まあ個人的な考え方です。

## ステイ・ホーム期間の記録

**アンジェロ:**どこかのインタビューで読んだんですけど、コロナ・パンデミックのせいで、オスカルさんの場合は新たなインスピレーションというか、新たな作品が生まれたという風に仰っていたと思います。

**オスカル:**パンデミックでNYはひどいことになってしまった。2週間で1万人くらいの方がNY州で亡くなって、どこにも行けずに家の中でじっとしているしかなかった。去年の春がそういう状況だったので、家の中で何をしようかと思って、小さなテーブルの上にデジタルのタブレットがあって、それ使って絵を描き始めて。3カ月間毎日、シリーズとして30枚描きました。去年の夏、そのデータを日本に送って、日本の画廊がそれをプリントして、今年の1月〜2月に展覧会をしました。「Quarantine Drawing Series」(隔離ドローイングシリーズ)というタイトルで、困ったときに何ができるかということに対する自分の答えというか、いい形でまとまった。

テーマは重いけど、時代の記録というか日記みたいになって、10年20年50年後、ああこういう時があったなというドキュメントになったんじゃないかなと思います。

## JICA横浜リニューアルにも参画

**アンジェロ:**今日はJICA横浜センターでのお仕事も紹介していただけるんですね。

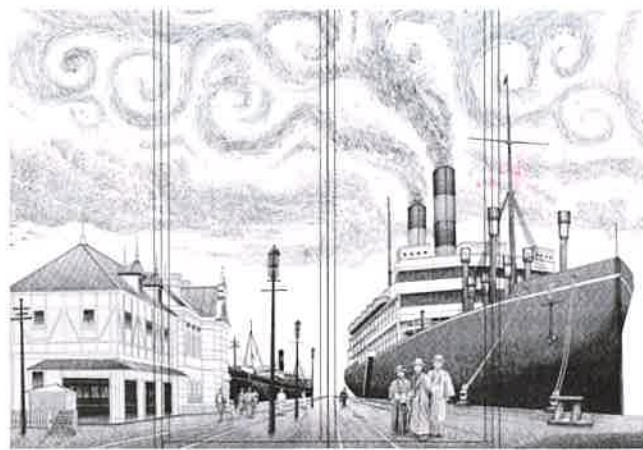


JICA横浜2Fの柱に描かれた移民船

**オスカル:**はい、JICA横浜のリニューアルプロジェクトの中で何かできないかと聞かれて、移民のことは興味があるので、日本人を運んだ船の歴史を調べて、そのストーリーを絵にしました。JICA横浜の2階に5本の柱があって、それぞれに各国へ渡って行った船を描いて展示しています。

1階と2階はガラス面にも描くので、外の風景が半透明で見えるようになる感じになります。その設置がいま6割方終わったところで、最後に1階のガラス面だけ、できればこの夏に実際に日本に行きたくて描きたいと思っています。作品の一部はできているので、興味がある人はぜひ、JICA横浜に見に来てほしいと思います。

ペインティングではよく色を使うので、ドローイングの場合はなるべくシンプルに、ペン一本だけで済ますようにして、デッサンの世界を活かした作品を作っています。子どものときによくマンガを読んでいて、ディズニー系だったり、スパイダーマンだったり、うちには日本のマンガ、手塚治虫なんかもあって、そこから線の描き方を覚えたりしていました。線でどう表現するか、モノクロの世界でどう絵を描くかというのを子どもなりに研究して、それがいまのどっかい絵を描く基礎になっているんじゃないかなと思います。



2Fエントランスのガラス面に描かれた作品  
「トラベリング・アラウンド・ザ・ワールド」

**アンジェロ:**船に注目したというのがさすがだと思います。南米から日本に来るのは飛行機だとあつという間なんですよ。すぐ唐突というか。それこそ心の準備もできずにあつという間に、異国というか、まったく違う環境の国に人々が来ている。船の場合は1カ月以上時間をかけて、恐らく船に乗って人々はいろんなことを考えながらサントスとかに降り着いたんだろうなと。

**オスカル:**昔は心の準備をする時間があつたけれど、いまは24時間でどこかへ行けちゃうし、嫌いだったらすぐ戻ってこれたりするじゃない。ぜんぜん価値観が違うというか。着いたらすぐゲータイで写真をとって、ピピッとすぐ送って。

**アンジェロ:**そのフットワークの軽さが実はいろんな側面を持っているというか、いろんな影響を及ぼしているというか。

**オスカル:**昔と違って多少は日本の情報も海外にも出ているし、映画もドキュメンタリーもいっぱい出ているけれど、それでもいまの若い世代がはじめて日本に行くと、すごい変わった国だと思うんじゃないかな。

**アンジェロ:**最後にこのトークを見てくださっているみなさん、特に日系人が多いと想像していますけれど、何かメッセージを一言いただけると嬉しいです。

**オスカル:**一言で人生をまとめるのは難しいので、あまり素晴らしいことは言えないけれど。みんなどこか国を背負って生きていて、仕事をしたりしているけれど、なんかみんなが楽しく、日本人であろうがブラジル人であろうが他の国であろうが、楽しくコミュニケーションをとって、個人的なつきあいや仕事ができればいいんじゃないかなと、そう思っています。

**アンジェロ:**ありがとうございます。オスカルさん、ぜひまた東京で再会しましょう。楽しみにしています。

**オスカル:**どこか東京でブラジル料理屋さんでも行こうか。

**アンジェロ:**グローバル・グルメシティ東京には、素晴らしい美味しいブラジル料理店がありますからね。ぜひそうしましょう!

※2021年6月1日にオンラインで実施した対談を一部抜粋して掲載しています。対談の全文は、海外日系人協会YouTubeチャンネルで御覧いただけます。

## 「国際日系デー」ロゴ・マーク募集中!!



海外日系人協会では、パンアメリカン日系人協会(APN)と協力し、「国際日系デー」を祝うと共に多くの人々に世界で活躍する日系人の姿を知ってもらうため、国際日系デーを象徴するロゴマークのデザインを広く募集しています。

◆**応募資格:**誰でも応募できます。年齢、性別、居住地、国籍は問いません。

◆**募集期間:**2021年6月20日～同年8月31日

◆**結果発表:**第61回海外日系人大会(オンライン開催)で発表します。

募集の詳細、応募方法などは当協会WEBサイトから。たくさんのご応募お待ちしております!

国際日系デーロゴマーク

検索

## Conta bancária congelada 預金口座の凍結

相談センター 山形エレナ

**Q** Moro no Japão há muito tempo, porém não entendo e tampouco sei falar bem o idioma. Há alguns meses atrás, meu irmão me pediu emprestado o número da minha conta corrente do correio porque ele tinha um amigo muito próximo que ia receber uma determinada quantia e não iria dar tempo para que ele abrisse uma conta corrente. Como não estava utilizando a minha conta do correio e tinha somente 20 mil ienes, não achei que haveria algum problema e passei o número da conta. Passado alguns dias, foi depositado 500 mil ienes e fui junto com o meu irmão retirar o valor. Passou mais um mês e novamente foi depositado 500 mil ienes na conta, e novamente fui com o meu irmão para retirar a quantia e pedi a ele que não utilizasse mais esta conta, no que o meu irmão me disse que desta ele não sabia que iria ser depositado e que iria falar para o amigo. Passado alguns dias recebi uma correspondência do correio e como não entendo o que está escrito, um conhecido japonês me explicou só que eu não entendi muito bem, vocês podem verificar o que está escrito e o que eu devo fazer?

**A** Recebi por e-mail a cópia da correspondência e este era um aviso de que a conta corrente estava congelada conforme a “Lei sobre partilha e pagamento dos fundos depositados em contas bancárias utilizadas para fins criminosos, para a recuperação das perdas sofridas pelas vítimas de fraudes”, ou seja, “Lei de assistência às vítimas do Furikome Sagui” 犯罪利用預金口座等に係る資金による被害回復分配金の支払等に関する法律-振り込み詐欺救済法。Entrei em contato com o correio determinado no aviso e me foi dada a resposta ao qual repassei a consulente:

**Q** correio recebeu diretamente da Central da Polícia, o aviso que a conta corrente da referida pessoa fosse congelado por estar sendo alvo de investigação, devido a desconfiança de que os depósitos que estavam sendo realizados eram feitos por pessoas que haviam sido enganadas “furikome sagui”, e que devia entrar em contato com a Polícia (foi repassado o número do telefone) para saber o que deverá fazer e como ter a conta de volta”. Assim, repassei a consulente, e esta me disse que não está envolvida neste possível crime e que irá entrar em contato diretamente com a polícia através de um amigo. Ressalvamos também o perigo em “emprestar” a conta bancária a terceiros, por mais confiável que seja esta pessoa, e que assim que a investigação terminar e for constatado que não há nenhum problema, é mais seguro cancelar esta conta.

Uma outra informação muito importante: a partir de junho de 2019, as regras para estrangeiros em abrir contas correntes em instituições financeiras foram alteradas. Ao abrir uma nova conta o correntista deverá apresentar o seu zairyu card, com visto de permanência em vigor, e dependendo do tempo do período de permanência não poderá ou só poderá abrir após a renovação do visto. Para quem já tem a conta corrente em vigor deverá ir a agência onde tem a conta e apresentar o zairyu card para fins de cadastro, e toda vez que renovarem o visto deverão ir a agência para que seja atualizado, se não for feito estes trâmites correrá o risco de ter sua conta congelada.

Um dos objetivos para que esta lei fosse criada, foi para que as instituições financeiras pudessem ter o devido respaldo da lei para cancelar contas correntes inativas de estrangeiros ou que retornaram aos seus países sem darem

a devida baixa, ou então “vendiam” aos criminosos e estas contas muitas vezes eram utilizados para fins ilícitos, como o golpe do “furikome sagui”, que anualmente muitas pessoas, principalmente os idosos são lesados.

Lei de Assistência às Vítimas do Furikome Sagui (Banco do Brasil)

<https://www.bb.com.br/portalbb/page22,8477,8477,22,0,1,8.bb?&codigoNoticia=32216>

Para abrir conta corrente na agência do correio em português (Japan Post)

[https://www.jp-bank.japanpost.jp/kaisetu/pdf/kaisetu\\_pt.pdf](https://www.jp-bank.japanpost.jp/kaisetu/pdf/kaisetu_pt.pdf)

**相談** 日本に長く住んでいますが、日本語はできません。数カ月前、弟から「友達が近々ある程度のお金を受領する予定だが口座を開設している時間がない」として、私の郵貯口座を貸して欲しいと頼まれました。その口座はあまり利用していないため、残高は2万円しか残っていませんでしたが、問題はないだろうと考え、口座番号を教えました。数日後、その口座に50万円が振り込まれ、弟と一緒にそれを引き下ろしました。そのひと月後、新たに50万円が振り込まれ、同様に弟と一緒に引き下ろしました。その際、弟に「この口座はもう使って欲しくない」と伝えたところ、弟はこのようなお金が振り込まれるとは知らなかったで、友だちにそのように話すということでした。数日後、郵便局から通知が届き、何が書いてあるのかわからなかったで日本人の知人に聞いてみたのですが、よくわかりませんでした。(コピーを送るので)何が書いてあるのか、また、私がやるべきことを教えてください。

**回答** 相談者よりEメールで受け取った郵便局の通知の内容は、「犯罪利用預金口座等に係る資金による被害回復分配金の支払い等に関する法律」(略して「振り込み詐欺救済法」)により、相談者の預金口座が凍結されたとの内容でした。これに関して当該郵便局に照会したところ「郵便局は警察本部より「相談者の預金口座は、同口座への送金が振り込み詐欺の被害者により行われたのではないかの疑いで調査対象となったため、凍結して欲しい」との通知を直接受け取った」「相談者は、警察に連絡し何をすべきか、どの様に預金口座を回復させるか相談して欲しい」とのことでした。

これを相談者に伝えたところ、相談者は、自分は犯罪には全く関わっておらず、友人を通じて直接警察に連絡するとのことでした。ここで強調したいのは、第一にどんなに信用のおける人であっても、預金口座を第三者に「貸す」ことがとても危険だということです。第二に調査が終了し何も問題がないことをはっきりさせるために最も安全な方法は、問題になっている預金口座を解約することです。

もう一つとても重要な情報をお伝えします。2019年6月から金融機関での外国人通常預金口座開設に関する規則が変更になりました。新しい口座開設には、口座名義人は現在の在留資格を記載した在留カードを金融機関に提示しなければなりません(なお、在留期間満了日までの期間が3カ月未満の場合には在留期間更新手続き後でなければ開設できません)。すでに有効な口座を有する方は場合は、当該口座を有する金融機関に赴き、登録のため在留カードを提示する必要があります。また在留資格が変更された場合にはその都度当該金融機関に赴き(在留カードを提示して登録内容を)更新する必要があります。

このような手続きをとっておかないと貴方の口座は凍結される恐れがあります。振り込み詐欺救済法の目的の一つは、外国人が適切な口座解約手続きを行わないまま帰国することにより生ずる休眠口座や、結果的に犯罪者たちが振り込み詐欺のような違法行為に利用する“売却された”休眠口座を金融機関が抹消するための然るべき法的バックアップを提供するところにあります。振り込み詐欺の犠牲者の大部分は高齢者です。

振り込み詐欺救済法(ブラジル銀行)

<https://www.bb.com.br/portalbb/page22,8477,8477,22,0,1,8.bb?&codigoNoticia=32216>

ポルトガル語で郵便貯金口座を開設する方法(日本郵便)

[https://www.jp-bank.japanpost.jp/kaisetu/pdf/kaisetu\\_pt.pdf](https://www.jp-bank.japanpost.jp/kaisetu/pdf/kaisetu_pt.pdf)

**第61回海外日系人大会**  
**「新時代への挑戦—時空と世代を**  
**超えてつながる日系」をテーマに**  
**10月末にオンライン開催**

コロナ禍の影響で2020年度の開催を見送った海外日系人大会。今年度、第61回大会のリアル開催について、当協会ではこれまで慎重に検討を進めてきた。しかし、未だ海外からの参加者を募って開催することは難しい状況であることから、オンラインにて開催することが決定した。

昨年度は、大会代替イベントとしてオンライン・フォーラムを実施したが、今年度は第61回大会をオンライン版として10月30、31日に開催する。「新時代への挑戦—時空と世代を超えてつながる日系」を総合テーマに、基調講演のほか、コロナ禍における日系団体の課題と挑戦や、邦字紙・日系博物館等の役割、在日日系社会等についてそれぞれパネルディスカッションを予定している。

開催内容や参加方法等の詳細については、決まり次第HP等でお知らせする。

**リニューアル・オープン**

**「JICAプラザよこはま」**

**～海外移住資料館も**

**開館20周年を機にリニューアル**

JICA横浜センターの1～2階フロアを一般に公開し、開発途上国や国際協力について知ってもらうための展示スペース「JICAプラザよこはま」がこの度リニューアル・オープンした。P2～4の対談にご登壇いただいたアーティストの大岩オスカルさんが、柱やガラス面に移民船など移民をテーマにした作品を描いているほか、2階の中央展示スペースには元青年海外協力隊の彫刻家・藤浩志さんによる、アルマジロやカピバラ等移住地に生息する南米の動物たちの作品、壁面には横浜在住の作家イクタケマコさんによる、日系社会の街の風景や人々を描いた作品などが設置された。また、3階レストランにも日系ブラジル三世のアーティスト・ジェームズ・クドウさんによる中南米の植物や鳥などをモチーフにした色鮮やかな作品が設置され、訪れた人々が海外移住の歴史や移民、日系



2Fインスタレーション作品  
 「メッセンジャー」(藤 浩志)

**日系社会**  
**Topics**

社会などについて身近に感じられるようなスペースに生まれ変わった。

また、2022年に開館20周年を迎える海外移住資料館でも、常設展示の一部リニューアルが予定されており、今年11月29日から来年3月にかけて閉館、リニューアル工事が行われる。(photo: 加藤 健)



3Fレストランの柱に描かれた作品「テアトリアル・ディスプレイメント」(ジェームズ・クドウ)

**国際共同供養墓が八王子に完成**  
**日本で亡くなる外国籍住民の**  
**納骨が可能に**

日本で暮らす外国人が、国籍・宗教を問わずに納骨できる国際共同供養墓が東京都八王子市に完成し、5月18日に建碑式が行われた。一般社団法人「日本海外協会」が運営する「リスタート・コミュニティ」のプロジェクトの一環。

近年、日本で就労する外国人の多くが高齢や病気により日本で亡くなるケースが増えているが、宗教的・経済的な問題から日本の墓地では埋葬できず、遺骨の処理問題が増加しているという。国際共同供養墓は、そうした問題を解決するために計画・実現した。基本費用は4万円。経済的な問題がある場合は費用の個別相談も受けている。

お問合わせ・申込みは日本海外協会  
 (事務局05-2442-1703、  
 info@nihon-kaigaikyokai.com)まで。

**なにができるんだろう？**

夢と希望にあふれた  
 社会づくりを実現させるために、  
 わたしたち大成建設は  
 これからも人がいきいきとする環境を創造します。

地図に残る仕事。  
**大成建設**  
 For a Lively World

